

令和3年度 学校評価表

品川区立伊藤学園

校長 蜂屋 隆子

伊藤学園校区教育協働委員会

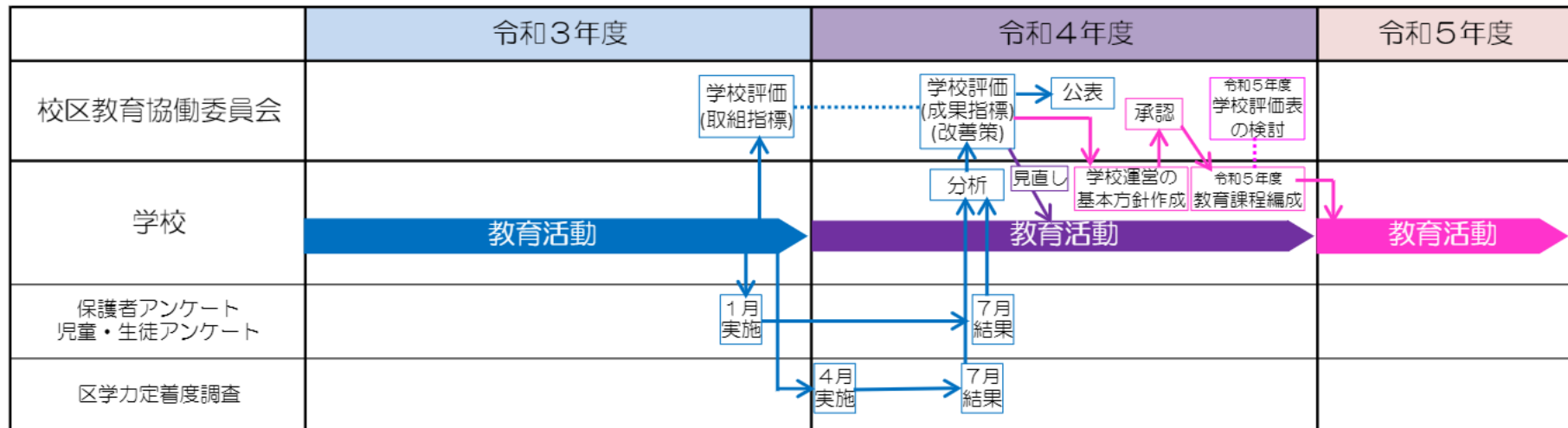
委員長 吉岡 昌紀

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和2年3月17日 教育長決定 要綱第7号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和3年度の学校評価が令和4年度および令和5年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和3年度 学校評価 品川区立伊藤学園

評価項目1 学力に関すること

重点目標		○自学求道:自ら学び生きる道を切り開くための基礎学力の定着に努める。 ○切磋琢磨:互いに磨き合いながら生きるために教え合い、補充教室等を実施して学力向上を図る。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	区学力調査(2~9年)で全国の平均正答率を上回る。 全国学力調査(9年)、国の平均正答率を上回る。	区学力調査では、2・3・5年が全国平均をすべての教科で上回った。 全国学力調査(9年)は、ほぼ平均値である。	A	・現在の実施方法では、5、6年では難しい面もあり、実施方法を創意工夫しながら継続して実施していく。
	・学力に関する継続的な検証改善サイクルを確立するために、各学年で平均正答率を指標として、分析・対応策を検討する。 ・自学自習できるように、定期考査返却時に5科に1学期から「セルフチェック」を導入する。	・5~9年において、5科については、1学期より「セルフチェック」および「テストを終えて」を実施した。 ・成果としては、自分の課題について振り返りができ課題克服に取り組むことができていた。	A	
②	授業アンケートで「分かる」と「よく分かる」を合わせて75%以上にする。	1・2学期の「授業アンケート」では、平均して90%を超えている。	A	・指導内容や評価について、系統的・教科横断的な視点で作成されていないため、年間指導計画と評価計画の形式を変更し、カリキュラムマネジメントを行う。
	・教員の指導力向上のために、1学期から「授業アンケート」の導入と定期考査後5科目については教員の自己分析「テストを終えて」を作成する。	・授業アンケートを各学期1回実施し、教員が自らの授業を振り返り、授業改善に取り組んだ。	A	
	・学習指導の工夫・改善のために、「指導と評価の一体化」を校内研修のテーマとして取り組み、年間指導計画及び評価計画の見直し・改善を行う。	・「指導と評価の一体化」を視点として、全教員が1回以上の研究授業を行った。 ・年間指導計画と評価計画の形式について検討を行った。	B	
③	保護者アンケートで「授業が分かりやすく、児童・生徒の実態に合わせて工夫がなされている」肯定的評価を90%以上にする。	そう思う:24% どちらかというと思う:51% 肯定的評価は75%であった。	B	・ICTの活用については、教員間格差があるため、従来の指導とICTを活用した指導がベストマッチした指導について継続して研究していく。 ・未来塾の人材の確保が課題となっており、大学等とも連携し人材確保する。サマースクールは、夏季休業の初めと終わりに設定する。
	・児童・生徒の興味・関心を喚起し、分かりやすい授業を行うために、タブレット等のICTの効果的な活用方法について研修する。 ・児童・生徒の学びを支援するために、タブレットを活用した宿題やEライブラリーの活用する。	・ICT教育推進教員を中心に、定期的の実技研修や情報提供を行い、効果的な活用について研修を行った。 ・各教科の授業において、タブレットを積極的に活用した。	B	
	・個に対応した学習の保障をするために、地域人材を活用し、未来塾・質問教室・補充教室を前期・後期ともに定期的に開催する。	・今年度より未来塾や定期考査前の質問教室・補充教室等を定期的に実施した。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和3年度 学校評価 品川区立伊藤学園

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		○至誠一貫:忍耐強く誠実に責任を果たす。 ○社会に通用する・社会に貢献できる児童・生徒の育成に努める。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	区学力調査の質問紙で社会性に関する項目が全国平均を上回る。	2・3・4・6・7・9年が全国平均を上回った。	B	・市民科の学習や行事・生徒会活動などを各学年がそれぞれ実施していたものを、系統的かつ一貫となった計画を作成する。 ・社会性を育むために地域との連携した取り組みについて検討する。
	・教養豊かで品格のある人間を育むために、市民科の学習や行事・生徒会活動などを意図的・計画的に実施し、取り組みの見直しを図る。	・市民科の学習や行事・生徒会活動などを意図的・計画的に実施するとともに、系統的に指導できるように計画を見直した。	B	
②	保護者アンケートで「当たり前」のことが「当たり前」にできていますか」で肯定的評価を90%以上にする。	そう思う:32% どちらかというと思う:53% 肯定的評価は85%だった。	B	・年度当初に「生活のきまり」や「申し合わせ事項」を確認したが、指導の徹底が図れない面が見られたため、できる限り1～9年の指導事項を統一するとともに、年度当初の確認する時間を十分に取るようにする。
	・「生活のきまり」を徹底するために、全教職員で共通理解を図り指導にあたる。 ・協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるために、生徒会による「生活のきまり」キャンペーンなど展開する。	・年度当初の生活指導研修会、月1回の職員連絡会、週1回の学年主任会・生活安全部による学校情報連絡会において、共通理解を図り、指導に当たった。 ・以前よりも「児童・生徒からのあいさつが増えている」とのご意見もいただいている。	B	
	・家庭やPTAとともに子どもの健全な育成を図るために、学校だよりや学年だより、保護者会などを通じて「生活のきまり」を守ることを協力を仰ぐ。	・様々な機会を通して、「当たり前」のことが「当たり前」にできるようになる」ことについて働きかけてきた。	B	
③	SNSや情報機器を活用するためのマナーやルールの定着を図り、トラブルの発生を年間10件以内とする。	SNSトラブルの発生は6件であった。すべてのケースでデータの消去・謝罪等の対応を行った。	B	・親子で一緒に考える機会も必要であるため、学校公開等の機会をとらえ、親子スマホ教室を開催し、子どもだけでなく保護者への指導も実施していく。
	・ネットをきっかけにするトラブルを未然に防ぐために、市民科や技術科の授業、セーフティ教室で外部の講師を呼んでネットリテラシーについて児童・生徒に考えさせる指導を行う。	・6月に4・7年生が外部講師を招いて、セーフティ教室を実施した。また、SNS学校ルールについても全校朝礼の講話や通知等で伝えた。	B	
	・トラブルの未然防止、早期発見・早期対応のために、保護者会や学年だよりなどを通じて保護者への啓発を図る。	・学年便り等で取り上げたり、地域健全育成運営協議会でテーマとして取り上げたりして、啓発を行った。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和3年度 学校評価 品川区立伊藤学園

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		○心身ともに健康な児童・生徒の育成に努める。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	体づくりにおいて、「体力・運動能力」の全項目で、都の平均値を上回る。	都平均を上回ったのは、144項目中66項目で達成率は46%であった。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での運動制限等の影響が大きい、制限がある中で運動する機会を確保できるように機会を設定する。 ・体育、保健体育科の年間指導計画の見直しを行う。 ・校庭遊具の設置について検討する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣と基本的な生活習慣などの改善を促進するために、体力調査の課題分析結果をもとに指導計画の改善を行う。 ・運動する楽しさを実感できるようにするために、テクニカルアドバイザーとのTT等で個に応じた指導や専門的な指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動の能力調査の分析および今後の取組について検討した。 ・テクニカルアドバイザーが体育の授業に入り、個に応じた指導や専門的な指導を行った。 ・低学団では、縄跳び・持久走に取り組む月間を設定し取り組んだ。 	B	
②	hyper-QUで「学級生活満足群」が全国平均を上回る。	hyper-QUで、学級生活満足群の全国平均を上回っている学級は、5月:11学級中10学級→10月:11学級中10学級	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学級全体に対してだけでなく、個々の児童・生徒にも焦点を立て、家庭と連携して支援方法を検討していく。 ・関係機関とつながっていない児童・生徒もあるため、今後も関係機関との連携を深め対応していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒一人一人に適切な対応を図るために、学級風土調査やhyper-QU、Iチェックの結果を学級集団および個人について分析し、対策を各学年・学団で考え指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と学年主任が学級風土調査やhyper-QUやIチェックの結果結果を分析し、対策を検討した。 	A	
	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校や学級不適応など多様な課題を抱えた児童・生徒にきめ細やかに対応するために、校内委員会や関係諸機関と積極的に連携を図る。(実際に対応した数…きめ細やかさ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校等の課題を抱えた児童・生徒に対して、多くの関係機関と定期的に情報共有をはかり連携し対応した。 	A	
③	保護者アンケートで「校内が整備され、安全な学習環境が整えられていますか」の肯定評価を90%以上にする。	そう思う:43% どちらかというと思う:48% 肯定的評価は91%であった。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で一斉避難ができないことが多く、避難訓練を計画通りに実施することができなかったが、来年度は、予告なしの避難訓練を実施する。 ・市民科の学習での災害教育を系統的に指導できるように1～9年の年間指導計画を見直す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒が安全・安心に学校生活を過ごすために、食物アレルギー対応児童・生徒について全教職員で共通理解を図るとともにエビベン講習会を実施する。 ・誤食等の事故を未然に防ぐために、配膳時に担任と栄養士でダブルチェックを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギー対象児童・生徒についての情報共有を行うとともに、校外学習時の食物アレルギー対応を見直した。また、エビベン講習会や外部講師を招いてのAED講習を行った。 	A	
	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における被害を最小限にとどめるために、毎月の校内の安全点検を実施し、主事やスクール・サポート・スタッフと連携して校内環境を整備する。 ・校内での新型コロナウイルス感染を防ぐために、フィジカルディスタンス・手指消毒・マスク着用を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月安全点検を実施し、必要に応じて修繕を行った。また、大井消防署の立入検査を行い、環境整備を行った。 ・フィジカルディスタンス・手指消毒・マスク着用を徹底した。 	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和3年度 学校評価 品川区立伊藤学園

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		○一人一人を大事にする。 ○互いを尊重し、いじめることは絶対に許さないという校風を確立する。 ○未然防止・早期発見・早期対応を目指す。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	生活アンケートの「学校は楽しい」・「友達と仲良くしている」の肯定的回答を80%以上にする。	「学校は楽しい」5月:86.5% 10月:86.1% 「友達と仲良くしている」5月:96.6% 10月:95.4% 肯定的回答は90.9%であった。	A	・系統的な指導が十分とは言えず、市民科を核として人権教育の年間指導計画を継続して見直していく。 ・「多様性の理解」を視点に取組を検討する。
	・人権尊重の精神の寛容を図るために、規範意識、人権尊重の意識の向上、思いやりのある集団作りに関する内容を市民科の年間指導計画に位置付け、系統的に指導する。	・人権教育を系統的・計画的に行うために、学習進路部を中心に計画を見直した。	B	
②	いじめの疑い発見・対応年間10件以上とする。	いじめの疑いがあり、聞き取りや指導等の対応件数:25件 認知件数:2件	A	・いじめへの対応等について、教員が共通理解を図れていない面が見られたため、継続的に指導を行う。
	・いじめを早期発見するために、生活アンケート(区・学校独自)と生活面談、SCIによる全員面接(5・7年)、校長面談を定期的を実施する。 ・児童・生徒情報を共有し組織的に指導するために、週1回、学校情報連絡会と学年主任会を開催する。	・生活アンケートを6回、生活面談を3回実施するとともに、5・7年生はSCIによる全員面接を実施した。 ・週1回、学校情報連絡会と学年主任会を開催し、情報を共有し、対応を協議した。	A	
	・早期解決のために教育委員会や警察等の関係諸機関と積極的に連携する。	・HEARTSや子ども家庭支援センターなど関係機関とも連携して、組織的かつ迅速に対応した。	A	
③	保護者アンケート「お子さんのことで、教員は親身になって指導したり相談に乗ってくれたか」の肯定的評価を80%以上にする。	そう思う:43% どちらかというと思う:43% 肯定的評価は86%であった。	A	・教育的ニーズにあった支援ができなかった児童・生徒もいるため、今後も本人や保護者と合意形成を図りながら支援していく。
	・いじめ防止プログラム(4・7年)、hyper-QU(4～7年)、生活面談(全学年)等の実施し、また日々の家庭への電話連絡・家庭訪問などを行う。	・未然防止・早期発見のため、いじめ防止プログラム(4・7年)、hyper-QU(4～7年)、生活面談(全学年)を実施した。疑いがある場合には、組織的かつ迅速に対応した。	A	
	・子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行うために、特別支援教室や特別支援学級、適応指導教室など必要に応じて積極的に連携を図る。	・今年度は、特別支援学級への転級1名、適応指導教室への見学・体験・通室が7名など教育的ニーズに合わせた必要な支援を行った。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (特色ある教育活動に関すること)

重点目標		○義務教育学校だからこそその市民科学習の充実を図る。(異学年交流活動) ○市民科一貫プランにおけるキャリア教育の推進を図る。 ○信頼される学校づくりの推進を図る。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	区学力調査・全国学力調査・hyperQU等で自己肯定感に関する回答を全国平均を上回る。【評価項目2①】	hyper-QUで、学級生活満足群の全国平均を上回っている学級は、5月、10月ともに11学級中10学級でした。	B	・今後は地域等と連携した高齢者・障害者・乳幼児等との交流も年間指導計画に位置付け、系統的に実施していく。
	・アサーションや人とのかかわりを通して自己肯定感や自己有用感を向上させるために、特に異学年交流の工夫・改善を行う。	・低学団のたてわり班活動、9年生による1年生のお世話、5年生と8年生による共同学習など異学年交流を実施し、自己肯定感や自己有用感を高めることができた。	B	
②	保護者アンケートで「市民科の授業で学んだことは、日常生活に生かされているか」肯定的評価を80%以上にする。	そう思う:17% どちらかというと思う:51% 肯定的評価は68%であった。	C	・「進路指導＝生き方指導」を基本方針として、自己実現ができるようにキャリアパスポートの充実を図る。 ・コロナ禍で大井第一小学校、山中小学校と合同で研修することができなかったが、3つのテーマについて研究・研修を実施する。
	・主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなげるために、各行事の作文やキャリアパスポートを作成する。	・各行事の作文やワークシートをキャリアパスポートに綴り、自己の成長を感じることができた。	B	
	・市民科一貫プランをテーマに校内研究を行う。	・9月に市民科の研究授業を行い外部講師を招いて研究協議会を行った。	B	
③	保護者アンケートで「学校は保護者や地域に対して、学校便りや学校WEBページなどを活用して、適切に情報を提供していますか」の肯定的評価を80%以上にする。	そう思う:25% どちらかというと思う:49% 肯定的評価は74%であった。	C	・コロナ禍で学校公開や保護者会が計画どおりに実施できなかった。コロナ禍での発信方法について検討する。
	・関係者との持続的かつ良好な関係構築のために、学校の様子を学校公開や保護者会、学校だより、学年・学級だより、学校ホームページ等で発信する。	・コロナ禍で制限がある中で、学校の様子を学校公開や保護者会、学校だより、学年・学級だより、学校ホームページ等で発信した。また、学校ホームページを刷新した。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成